

Conservation of cultural and historic landscape
of Walden Pond and Woods -with a particular
focus on socio-cultural environment and
corresponding activities

鄭，媛玟

<https://hdl.handle.net/2324/7157342>

出版情報：Kyushu University, 2023, 博士（工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：



KYUSHU UNIVERSITY

(様式 2)

氏 名 : チョン ウォンミン

論 文 名 : Conservation of cultural and historic landscape of Walden Pond and Woods
-with a particular focus on socio-cultural environment and corresponding activities
(ウォルデンポンド及びウッズにおける歴史的・文化的景観保全の経緯
-保全活動と社会的背景の関連性に着目して)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

米国マサチューセッツ州にあるウォルデンポンド及びウッズは、歴史的・文化的景観保全の成功事例として知られているが、保全の歴史的経緯と成功要因を詳細に明らかにした研究はない。本研究では、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全の取り組みの最初期（19世紀中葉）から今日までの経緯を、社会的背景の変化と関連づけながら精査し、今日の成功に至った要因を明らかにするものである。

本論文は次に示す 6 つの章で構成している。

第 1 章では、本研究の背景と研究目的を述べ、さらに、本論文の構成を示した。

第 2 章では、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全の取り組みに関連する事項を扱った既往研究について整理をおこない、本研究の位置付けを明確化した。

第 3 章では、本研究で用いた研究方法について示した。

本研究の基盤となるのは、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全の取り組みに関連する一次資料の収集である。コンコード図書館、マサチューセッツ州デジタルアーカイブ、米国国会図書館デジタルアーカイブ、ソロー研究所 (Thoreau Institute)、ソロー学会、リンカン及びコンコードのランドトラスト等で最初期にあたる 1850 年代から 2010 年代までの期間について、関連する一次資料の収集・整理を行なった。それらの中には、ウォルデンポンド及びウッズに関する初の体系的な管理計画である「ウォルデンポンド修復計画報告書」(Walden Pond Restoration Study) の原本、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全に関する裁判記録、法令起案書、土地委託証書、国及び州の行政報告書、新聞記事アーカイブ、古地図、古写真、関係者の書簡等が含まれている。

1970 年代以降については、一次資料調査に加えて、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全の取り組みに関与した多くの人物が健在であることから、それら関係者へのヒアリング

を実施し、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全に関する出来事やそれらの背景等について聴取した。

上記の一次資料及びヒアリング結果を元に、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全の取り組みの経緯を詳細に明らかにし、合わせて同時期の米国内の社会的背景の変化との関係性を吟味することで、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全が今日の成功に至った要因を明らかにすることを目指した。

第4章では、第3章に示した一時資料とヒアリング結果を元に、1850年代から2010年代までの期間について、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全に関する主要な出来事を時系列で整理した。その結果、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全の取り組みは、四つのフェーズに分けて考えることが可能であることを明らかにした。

四つのフェーズとは、①エマーソン等土地所有者達の自発的保全が主であった時期（1845年頃-1921年頃）、②郡管理下で湖岸のレジャー開発が優先され景観破壊の危機が生じた時期（1922年頃-1971年頃）、③州政府のもとで初めて体系的な保全計画が作成され実施に移された時期（1972年頃-1987年頃）、そして、④複数の商業開発計画が持ち上がる中でNPO等多様なステークホルダーが連携し土地買収を含む柔軟な保全活動が展開された時期（1988-2016）である。

第5章では、上記の四つのフェーズそれぞれの時期になされたウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全の取り組みと、同時期の米国内における社会状況の主な動きとを突き合わせることにより、それぞれのフェーズにおいて、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全に影響した問題の特徴と問題発生の経緯、それに対応した主体の特徴と対応メカニズム、そしてそれらに影響を及ぼした社会状況について、詳細な検証を試みた。

その結果、ウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全の取り組みは個別・場当たり的に行われてきたものではなく、社会的背景の変化と密接に関連しながら各フェーズで保全手法が洗練されてきたことを示すことができた。

さらに、長きに渡るウォルデンポンド及びウッズの歴史的・文化的景観保全の取り組みが今日の成功に至った要因として、ウォルデンポンド及びウッズが今日の米国における環境保護運動のルーツと言ってよい超絶主義の思想がエマーソンとソローによりかたちづくられた地であり、その歴史的・文化的景観は保護されるべきものである、という認識が米国社会で広く共有されてきたことが背景にあることを示唆することができた。

第6章では、本研究で得られた成果を総括し、今後の展望について述べ本論文の結論とした。